

## 山の百の花

研究生会員 木村 博

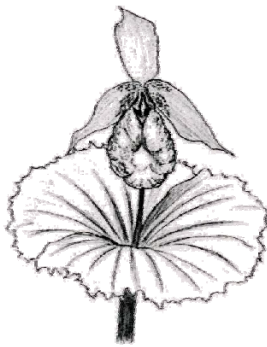
## 【93】クマガイソウ

総じて若者、特に男性は花に疎い。私もそうだった。開ききったチューリップを見て、ケシの花かと聞いて家内に笑われた。花を生けるのはいいが、そこまで放っておくほうが悪いと反論したものだ。時を経て、高山植物を中心に興味がわいてきた。珍しい花があると聞くと、もう、いてもたってもいられない。そんな中、岐阜の山中にクマガイソウを見に行った。

アツモリソウ属の花は中級山岳で普通に見られたという。それがいまではどこへ行っても文字通り見る影もないらしい。一昨年、超希少種ホテイアツモリを見にわざわざ北海道に飛んだ。同人神森氏とともに年間百二十人限定の峠（きりぎし）山の入山許可を得たのである。お陰でオオヒラウスユキノソウにも会えた。ついでにまわった東大雪では、三度目の出会いにして初めて念願のナキウサギの撮影にも成功した。

クマガイソウは、よくアツモリソウと対比される。それぞれの花を一ノ谷で戦った

熊谷直実と平敦盛の流れ矢を防ぐ母衣（ほろ）にみたてているからである。彼らの間には悲しい物語がある。敦盛を組み伏せた直実は、まだ年の端のゆかない若武者であることに気づく。なくなく敦盛の首をとるが、これを期に出家する。その間のやりとりは幸若舞の「敦盛」で取り上げられ、後の武士はその背景にある無常観を好んだという。有名な「人間（じんかん）五十年化天の内をくらぶれば夢幻のごとくなり」はその中の一節であるが、信長公記では化天が下天に変わっている。人間の一生なんぞは六欲天からみれば誠にはかないものなのだ、という意味らしい。



木村博

## 【94】ヒゲネワチガイソウ

ブログをみるとクマガイソウを「熊がいそう」とだじゃれているのをよく目にする。ここでは、「いけね、間違いそう」を取り上



輪違紋

げたい。ヒゲネワチガイソウ、ま、多少の無理はご容赦願いたい。オキナグサを探しに行った際に林道脇に咲いていた。ワチガイソウ属の花は通常、白色の5弁花である。ヒゲネがつくと普通6〜7弁なので、基本的には区別は容易である。花卉の白と赤紫色のオシベとの対比がかわいい小さな花である。最近はこのような花にも目が向くようになってきた。江戸時代、名称不明の花に輪違い紋の印をつけておいたところ、ワチガイソウになったという。因みに真言宗豊山派（奈良長谷寺、東京護国寺）ではこれを寺紋にしている。両方の輪は金剛界（智）と胎藏界（理）を表す。立山信仰においても芦峯寺、岩峯寺は胎藏界、立山、劔岳は金剛界に相当するという。豊山派の教えによると、私のような不悟の人間はいつとも両界の間をふらふらしているのだとか。